

第 1 2 回多摩市都市計画に関する 基本的な方針改定特別委員会

(令和7年2月13日)

議事日程

- 第1 署名委員の指名について
- 第2 次期 多摩市都市計画マスタープラン（案）について
- 第3 その他

都市整備部長 それでは、定刻となりましたので、始めさせていただきたいと存じます。

都市整備部長の佐藤でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

本日は、第12回多摩市都市計画に関する基本的な方針改定特別委員会でございます。本日をもって、この会議の開催も最後となります。令和4年に本特別委員会を設置しまして、これまで11回会議に御参加、御協力いただき大変ありがとうございます。最後までどうぞよろしくお願いいたします。

それでは、本日の議事でございますが、案件が3件でございます。資料の1、2、それから参考資料1、2でございます。よろしいでしょうか。

2年と3か月にわたり御審議いただきました「多摩市都市計画マスタープラン」の改定につきまして、前回まで御審議いただきました御意見や、昨年12月に行われましたパブリックコメントの御意見、また、東京都から受けました意見などを基に、「多摩市都市計画マスタープラン（案）」をまとめましたので、この案について御意見を賜りたいと存じます。

それでは、以降の進行につきましては、中林委員長にお願いしたいと存じます。委員長、どうぞよろしくお願いいたします。

中林委員長 皆さん、こんにちは。本日もどうぞよろしくお願いいたします。

それでは、非公開案件もございませんので、多摩市都市計画審議会運営規則第12条の規定に基づき、本日の審議会は公開とさせていただきます。

また、傍聴人につきましては、多摩市都市計画審議会の会議の公開に関する取扱規定に基づきまして、会場の都合により先着5名以内とさせていただきます。傍聴希望者はおられますでしょうか。

事務局 傍聴希望者はございません。

中林委員長 傍聴希望者はおられないということです。このまま会議を進めたいと思います。本日の議事録につきましては、委員等の名前は伏しませんが、全文公開になりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、ただいまより会議に入りたいと思います。ただいまの出席委員は、16名であります。委員数は22名でありますので、定足数に達しております。

これより第12回多摩市都市計画に関する基本的な方針改定特別委員会を開会いたします。

なお、3番、饗庭伸委員、7番、石川美紀委員、15番、四田秋雄委員、20番、松本暢子委員、21番、松本真澄委員は、都合により本日欠席との連絡をいただいております。萩原委員は、御連絡がないのでまもなくお見えになるかなと思っております。よろしくお願いいたします。

それでは、本日の日程第1「署名委員の指名」を行います。多摩市都市計画審議会運営規則第18条第3項の規定に基づき、10番、尾中信夫委員、11番、古賀けい子委員を指名させていただきます。よろしくお願いいたします。

それでは、日程第2「次期 多摩市都市計画マスタープラン（案）について」、事務局より、御説明をお願いいたします。

都市計画課長 それでは、よろしくお願いいたします。議事日程第2「多摩市都市計画マスタープラン（案）について」、御説明させていただきます。

前回の第11回多摩市都市計画に関する基本的な方針改定特別委員会では、長時間にわたり意見交換をさせていただきまして、ありがとうございました。

前回の特別委員会後、「次期 多摩市都市計画マスタープラン(素案)」を公表し、11月26日、30日に市民説明会、11月26日から12月26日の間でパブリックコメントを実施し、また、並行して東京都との協議を実施いたしました。市民説明会は各日8名ずつ、計16名の参加がございました。パブリックコメントはインターネットによる意見が9件、窓口を持参された方が1名の計10件でございました。

参考資料2、パブリックコメント回答をお開きください。こちらがパブリックコメントでいただいたご意見と回答でございます。いただいた意見に対して、右側に回答を記述しておりますけれども、こちらの内容につきまして、都市計画課だけで回答するのが難しい部分につきまして

は、全庁に確認を取りまして、文面の調整をさせていただいた上で、このような回答とさせていただいております。内容につきましては、都市計画マスタープランというところよりも個別の内容が多かったようでしたので、各部門別の計画での対応を展開しますというような記述をさせていただき、都市計画マスタープランへの反映は特にございませぬ。こちらの内容につきましては、後ほどお目通しいただけたらと思います。

続きまして、参考資料1を見ていただきたいと思います。素案からの修正（新旧対照表）でございます。こちらは素案において協議した東京都からの意見や、庁内の意見による修正を行ったものについて、新旧対照表でお示ししたものとなっております。左側が修正前、右側が修正後というところでございます。

こちらの修正を反映したものが資料1、次期多摩市都市計画マスタープラン（案）となります。また資料2、次期多摩市都市計画マスタープラン（案）【概要版】は資料1を概要版としてまとめたものとなります。冊子として、表紙や章ごとの色のイメージも、このような構成となります。また、事前に送付させていただきました次期多摩市都市計画マスタープラン（案）から、冊子構成に合わせて色合いの変更を少し行ってございます。いただいた御意見等や、市の施策的な部分から変更した箇所について少し御説明させていただきます。

資料1の51ページ、白丸の下から4つ目のところに誰もが住み続けられるまちの記載がございますけれども、こちらに「子育て世帯を惹きつけ」を追記いたしました。また、少し戻っていただきますけれども、35ページの東京都の関連計画である多摩のまちづくり戦略の案が1月31日に公表された関係で、記述を修正してございます。

このページにつきましては、東京都が3月に多摩のまちづくり戦略の策定・公表を予定していることから、本都市計画マスタープランにおいても、3月に公表する時点で、時点修正を行う予定でございます。東京都からは事前に内容が大きく変わることはないとの説明を受けており、市の意見で時点修正は要望するものの、都市計画マスタープランの内容への影響はほとんどないと考えております。

次に、42ページの2項目目においても東京都の動きが関連することから、一部修正を行ってございます。また、同ページ、聖蹟桜ヶ丘かわまちづくり計画に関する記述がございましたけれども、先日、かわまち大賞を受賞したということから、記載を追加させていただいてございます。

続きまして、85ページに参ります。こちらの一番上の(2)の黒ぼち4つ目です。本市では来年度から道路維持管理業務と公園維持管理業務の持続可能な道路・公園の維持管理体制の構築に向け、市の組織を改正する予定がございます。それに伴い、(2)健全な街路樹空間の創出の4段落目の記述を追加させていただいたところがございます。

そのほか、文章の言い回しや誤字等修正しているところがございますけれども、先ほどお示しさせていただいた参考資料1の新旧対照表のような形で、修正をさせていただいているところでございます。

説明は以上でございます。よろしくお願いいたします。

中林委員長

御質問あるいは御意見等を承りたいと思いますが、一応、本日は最終の特別委員会ということですので、よろしくお願いいたします。発言される方は挙手の上、最初に発言者のお名前を言ってください。

〇〇委員

13番、〇〇でございます。かなりボリュームのある冊子をつくられており、御苦労さまでした。この中で、11月以降、大きくまちづくりの関係で動いた事案がございます。それは永山地区の日本医科大学多摩永山病院の建て替え問題で、多摩市のほうが交渉からおりて日本医科大学多摩永山病院は相手がいなくなったから交渉を打ち切るということになって、それ以後、南多摩地区5市の市長が連名で文書を出しておりますが、これについて、日本医科大学多摩永山病院が建て替えをするのかというのは今のところ全然分かりません。そうすると、この都市計画マスタープランの中でざっと私が見た中で4か所ぐらい、明らかに日本医科大学多摩永山病院のことを書いていると思われる部分がございます。その部分について、今後20年の間、日本医科大学多摩永山病院が存続してくれれば、それは問題ないのですが、なくなってしまった場合、前提がおかしくないかという話が出てきかねません。

場合によれば、日本医科大学多摩永山病院に関する部分を削除すると

いう作業をしてもいいのではないかと思います。

今の状況では、日本医科大学多摩永山病院が残るのか、移転するのか全然分かりません。もし多摩市以外の南多摩医療圏の中で移転するといった場合、多摩市はそれを引き止める具体的なカードがないはずです。日本医科大学多摩永山病院が存続するという前提の文章を入れなくても、大意は変わらないかと思うので、それについて一度検討したほうがいいのではないかと考えております。

中林委員長 ありがとうございます。具体的には資料１の１２９ページ、永山駅周辺におけるまちづくりの課題というところの（１）にぎわいづくりに関する課題の１行目に、「駅近くに三次救急医療施設である日本医科大学多摩永山病院が立地するなど」というのがあります。１３０ページの１行目にも、三次救急医療施設ということで入っています。

〇〇委員 ９１ページの（４）防災指令拠点機能の強化の一番下の黒ポチに災害時拠点病院とありますが、これも日本医科大学多摩永山病院のことです。これを削除しても、消防署、警察署等とあれば、何となく意味は通じるだろうと思ったところであります。

また、６６ページの③永山駅周辺の部分で、永山駅前の市有地、旧多摩ニュータウン事業本部用地のことが書いてありますが、この部分を削除しても、大きく文章上の大意は変わらないだろうと思うので、それについても、検討する余地があるのではないかと考えて手を挙げさせていただいた次第であります。永山駅前の市有地とありますが、これは明らかに多摩市が移転候補地として挙げた土地のことを指していますので、これを削除して、永山駅周辺の土地の高度利用化を図る、としても何らおかしくないだろうと思ったところです。

中林委員長 ６６ページの永山駅前の市有地というのは、（旧多摩ニュータウン事業本部用地）と書いてあるんですが、１行目の「医療」という記載が要らないということですか。

〇〇委員 いや、開業医さんがいらっしゃるわけですから、「医療」という記載を削除する必要はないと思います。ただ、明らかに日本医科大学多摩永山病院の動向が分からないわけですから、永山駅前の市有地（旧多摩ニュー

ータウン事業本部用地)を含めという記載については、ここは多摩市が日本医科大学多摩永山病院に移転候補地として提示した土地のことですから、削除を検討したほうがいいと思います。

中林委員長 でも、これは日本医科大学多摩永山病院のことだとは分らないですよ、現市有地を含めて考えましょうということだけですから。

〇〇委員 それで、今後多摩市が開発するというならそれはそれで残していいのかもしれない。

中林委員長 この土地は多摩市がもう所有しているわけですよ。

都市計画課長 そうです。

中林委員長 〇〇委員のご意見について、市として今後検討しますか。

都市計画課長 御意見ありがとうございます。まず、資料1の130ページのところ、「三次救急医療施設である日本医科大学多摩永山病院を中心とした」という記述が、今後20年先を考えるとどうなんだろうかという御意見かと思います。日本医科大学多摩永山病院からは、旧多摩ニュータウン事業本部用地での建て替えは断念というお話は出ておりますけれども、当面、救急医療を続けていくというようなお話もいただいておりますので、今ここで記述を削除してしまわずに、今のまちづくりでは、三次救急医療施設は非常に重要と考えておりますので、本市としては、この記述は、必要と考えているところでございます。

また、先ほどの66ページのところ、旧多摩ニュータウン事業本部用地は、市有地ということで、日本医科大学多摩永山病院の移転先ということで想定していたところでございますけれども、今後、あの場所がどう利活用されるかということは、今後の永山駅周辺のまちづくりにおいて非常に重要になりますので、ここの記述も残しておくべきと考えてございます。

中林委員長 基本的には日本医科大学多摩永山病院は現地で診療は継続していくということです。建て替えの計画は却下したけれども、現状のまま運営していきますという話だということですか。

都市計画課長 そのように市としては捉えております。全庁的にも、日本医科大学多摩永山病院の記述は気にしながら、この都市計画マスタープラン改定を

進めてきましたが、関係各部署との調整の結果、このような記述で整理させていただいているというところでございます。

中林委員長 ということで、現状も空き家になっているわけではないし、医療行為を継続しているということで、市としては病院に継続してほしいという話があるかと思います。それを現状で書いておくというのが、今の事務局の説明だったかと思います。私はそれでもいいのかなと思うんですけども、ほかの委員の方はどうですかね。

〇〇委員 〇〇です。私の理解では、日本医科大学多摩永山病院は建て替えしないということを言っているわけではなくて、元々は多摩市の土地を提供してタイムリーに建て替えをするのを助けようという話だったので、残っている問題としては、基本的に日本医科大学多摩永山病院はあの敷地の中で建て替えたいけれども、自分の土地をやりくりして建て替えるか、もっと違う方法を考えなければいけないということだと思うんです。なので、この先、10年、20年、30年という話の中では、建て替え計画が消えたということではないんじゃないかと思っています。

中林委員長 現状の文章で問題はないという見方だと。

〇〇委員 どこかに建て替えという字が書いてあるなら別だけど、そうは見えなかったので問題はないと思います。

中林委員長 逆に建替えという記述は全部消されているということで、よろしいでしょうか。

〇〇委員から御指摘がありましたけれども、むしろ残しておくほうがある意味では、戦略的なメッセージを病院に対して出しているということだと思います。今、どこでも建築計画取下げというのは結構多いんです。建設費が非常に上がってしまったので、当初予算じゃ全く足りないという状況で、中断せざるを得なくなっているという事例が増えています。大阪万博の工事が終わったら何とかなるかという話もありましたが、どうもそれぐらいでは全然何ともなりそうもないと思います。

アメリカの関税が上がったりすると、また建設費が上がってしまうかもしれないみたいな話なので、先行きが見えない中で、日本医科大学多摩永山病院もちょっと身動きが取れないという状況にあるんじゃないか

なというので、〇〇さんからお話があったように、状況が好転して何か動きがあるときに、また多摩市と連携していければいいと思います。それから、東京都としても災害時の医療体制の布陣を張っているわけですから、三次救急医療施設が勝手にどこかに行かれちゃ困るんですよね。そういう意味では、多摩のこの辺りにとどまっていたほしいという思いはあると思いますので、その辺は都とも連携しながら、多摩市はちゃんと市の計画に位置づけていますよということで、この都市マスにおいても、今記載されているような形で展開しておこうということかなと思いました。

ありがとうございます。ほかにはいかがでしょうか。どうぞ。

〇〇委員

内容の話ではなく、色の話なんですけれども、112、113ページの拠点別・地域別まちづくり方針の考え方のところの色分けというのは、第1地域は、グリーン系になっているんですが、その流れからいきますと、例えば138、139ページのところにそのまま同じように緑、青、ちょっとピンクがかった赤とかになってきますのを、後ろのほうにもつないだほうが分かりやすいのではないかと思います。例えば142ページからの第1地域のところが、第4章全体のオレンジでずっと貫かれていくんですが、一番上の線はオレンジでいいと思うんですが、第1地域と書いてありますところをグリーン系にする。そして、次の第2地域のところは青系にするとかというふうにしますと、ほかの地域と比べて自分が見たいところに戻ろうと思いましたときに、色が違っているとそこがすぐ見つかるんですけれども、そうじゃないとまた第1地域という言葉を探すために、またページをめくり、そして第4地域と比べようとすると、またその第4地域を探すのが大変ということになっておりまして、例えば第4章のインデックスの端のところに、第1地域、第2地域、第3地域というふうに色替えのインデックスをつけておきまして、それに準じて色を変える、あるいはそれが大変であれば今言いましたように、第1地域、第2地域というところのインデックスの色を変えていけば、後に戻る際にすごくスピーディなんですけど、今の感じだとまたページ数を紙に書いておくとかしませんといけないので、市民にとっても読

みにくいのではないかなというのが一番気になったところでございます。

中林委員長 ありがとうございます。せっかく 1 1 2、1 1 3 ページの拠点別・地域別まちづくりの方針というところのカラーリングで色分けをしたんだから、それをもっと積極的に活かして、ぱらぱらと見るときに、インデックスでもそういう色合いが見られるように工夫すればよいということですか。第 4 章は拠点別、地域別が全部同じ色だけでも、そこに斜めにこの地域の色を挟んでおくとか、そんなイメージということですか。

〇〇委員 そうですね、そうしますとページのどこかによりどことなる色がありますので、見たいところにまた戻れるというのが簡単かなと思います。

中林委員長 どうぞ。今の関係ですか。

〇〇委員 これに関係してなんですが、現在の都市計画マスタープランでは 6 9 ページに地域区分が書いてあって、極めてシンプルに記載されているんですが、この資料だと、ぱっと開いてめくっていくうちに、1 1 2、1 1 3 ページの色が非常にどぎつく、すごく分かりづらいです。写真も必ずしもその地区の全体を表示しているものばかりでもないもので、もう少しシンプルにさせていただいて、色については今提案があったような形でいいと思います。デザインのことは分かりませんが、写真ばかり多くて地域区分図が非常に小さいために分かりづらいと思います。

また、ページがまたがっているために見づらいというのがあって、これは今頃言って申し訳ないけど、何かもう少し工夫していただきたいなと思いました。

中林委員長 ありがとうございます。この 1 1 2、1 1 3 ページは、文字が全部黒文字なのでちょっと淡い色を使っているんですが、1 3 7 ページからの地域別すまいと暮らしのまちづくり方針のところは、白抜き文字にしているので、この黒文字で使った背景の色だと、白文字が抜けて見えないので、実は同じ色と言いながら、少し色が違っているんです。だから、それも含めて統一するのであれば、1 4 2 ページの「3-1. 第 1 地域」というところは、白抜きじゃなくて黒文字でいいから、1 1 2、1 1 3 ページと同じような色使いにして、まさにぱっと色が同じで地域が分かるほうが、ひょっとしたらカラー使いとしてはいいのかなという気もし

ていたところです。

〇〇委員 やっぱ地域別というところが、市民が一番興味があるところだと思うので、見やすいほうがいいと感じております。そういう意味では色遣いが統一されているほうがよいのではないかなと思っております。可能な限りでいいんですけれども。

中林委員長 最終的に印刷されると 1 1 2、1 1 3 ページというのは本当に見開き状態になると思うので、今よりは見やすくなると思います。つまり多摩市がセパレートにならずにつながって見えますから、もうちょっと見やすく、多摩市のどこというのが分かりやすくはなるかなとは思いますが、ちょっとその辺りのデザインの修正にどれぐらいの作業量が必要なのか、私には見当がつかないんですが、色等について、そういう意見があったということ。

どうぞ。

都市計画課長 すみません、事務局です。今、御意見いただいたところでございますけれども、皆様に事前送付させていただいた資料のとき、若干色味が濃かったりして見づらいというところがございますので、タブレット端末のほうでは、色味を修正したものを入れさせていただいております。説明が漏れてしまい申し訳ございません。例えばですけれども、資料 1 の 1 1 2、1 1 3 ページを見ていただきますと、第 1 地域が緑だったものを水色に変えていたり、第 4 地域では色が濃かったものを少し薄くしています。

中林委員長 なるほど。1 1 4 ページを見ると、白抜きじゃなくて黒字で入ったので、同じカラーリングになっているということですよね。

都市計画課長 そうですね、例えば 1 3 7 ページを見ていただきますと、1 1 2、1 1 3 ページの見開きのところの色味と合わせるような形にさせていただいて、少し見やすくなっているかなと思います。

中林委員長 分かりました。あと、右側の端にその地域の色合いを章別にカラーリングしてありますね。

都市計画課長 色味のことは、かねてより、皆様からいろいろ意見いただいているところで、この右側の第 1 章から第 5 章、資料編の見出しの色と、第 1 地

域から第5地域を違う色にしようと思うと、相当な調整が必要になりそうなので限界がありまして、現状難しいと判断させていただいております。

ですけれども、資料の中の第1地域から第5地域、その中で色が違うような工夫は少しさせていただいています。ただ、先ほど言われていた第4章の第1地域から第5地域の名前が入っているところの色味は水色のままです。そのところはなかなかこちらでも整理し切れなかったかなというところがありますので、最後の時間でどういう工夫ができるのかというところは、少し探してみたいと思います。御意見ありがとうございます。

中林委員長 ページの一番右側にある第4章というところに、それぞれの地域のカラーを丸いマークで一つ入れておくだけでも、色で見るという意味ではよくなるかなと思いました。

〇〇委員 親切ですね。

都市計画課長 会長、御意見ありがとうございます。ページ右側の第4章の水色の中に、例えば第1地域だったら。

中林委員長 水色マーク、黒丸に水色でもいいです。

都市計画課長 そうというような工夫ができないか、第1地域とか第2地域とか、このインデックスのところに入れられるのかどうかということも考えてみたいと思います。ありがとうございます。

〇〇委員 すみません、委員長。

中林委員長 どうぞ。

〇〇委員 13番、〇〇でございます。それぞれの地域に写真が貼ってありますが、写真を入れるのであれば、写真を見てすぐあの地域だと分かるようなところにした方がいいと思うんです。第1地域の写真は桜ヶ丘のロータリーのところですね。

それから第2地域のところも、私が知らないだけかもしれないのですが、連光寺、聖ヶ丘、馬引沢を象徴するような商店街なのかなという気がいたします。写真については、今更言っではいけないのかもしれませんが、該当地域が一目でぱっと分かるものだったらいいのですが、どこ

かわからないようなものであれば、一考を要するのかなと思います。それぞれの地域はこのエリアだよというような形だけでもいいのかなと思ったところです。

それぞれの地域の代表的な建物・風景だと分かればいいのですが、ここはどこなのかというようなところもありますので、これについては検討いただける時間があるならば検討していただきたいなと思います。

中林委員長 写真は市が持っている写真を使われているのですか。

都市計画課長 写真については、今回この都市計画マスタープランに入れるために写真を撮ったものです。また、御意見いただいたところで、何でこのような写真が入っているのかという御説明をさせていただきたいと思います。駅周辺というところはお分かりいただけるかなと思いますけれども、それぞれ第4地域ですとか第2地域というところ、こちらについては今後まちのにぎわい創出ですとか、そういったところに影響する地域の拠点となる近隣センターを写真として入れさせていただいているところです。

また、第1地域のバスロータリーは、アニメの聖地というようなところもあったので、象徴的なところだろうということで入れさせていただきました。第3地域のところも、こちらは百草団地ということで入れてさせていただいております、名称を入れるのかどうか少し考えられなくもないかなと思いますけれども、象徴的なところではないかもしれませんが、今後のまちづくりに影響を及ぼすようなまちづくりのポイントとなってくるだろうなというところを入れさせていただいたところでございます。その点御了承いただけたらと思います。

中林委員長 どうぞ。

〇〇委員 〇〇です。今のことに関連して、写真を入れるとしても入れる写真をもう少し考えたほうがいいのかと思ひまして、そもそも写真の風景が閑散として、寂しいよねと今話していたんですけれども、まちづくりを思わせたいのに閑散としたまちを写していいのかとか、そもそも何かのついでに撮りに行ったのというぐらい夕方の写真が多いので、ちょっとこれはないんじゃないのかなと思います。コンサルさんが撮ったのか、担当課さんで撮られたのか分からないんですけれども、もう少し全

体的に写真というものの力を意識して、絵で見えるものは結構そのまま伝わってしまうと思うので改善できるのであればしたほうがいいのかなと思います。

以上です。

中林委員長 今はデジタルなので、新しい写真を撮るのも昔と違ってできないことではないです。堤防の上から見ている写真だと思うのですが、確かに聖蹟桜ヶ丘駅周辺と言ってこの写真を出されると分かる人は分かるけど、分からない人は分からないかもしれません。多摩センター駅周辺は、パルテノン大通りから駅のほうを見ているんですよね。駅を出て、まちのほうを見た写真ではなくて、駅を見た写真になっているんだと思います。それから永山駅周辺も、駅を下側から見上げているようになっています。どうぞ。

〇〇委員 先ほども言っていたのですが、それぞれの写真に名称をつけるかという話で、普通はこういうのはキャプションが入っていないと相手に伝わらないと思いますし、例えば多摩市の中でもこの地域に住んでいるけど、この地域のことを知らないという人もいると思うので、キャプションは入れたほうがいいと思います。やっぱり写真というのはちょっと若い年齢の、自分から言わせてもらおうと結構若い人に伝えるにはかなり重要になるので、若いまちづくりをしたいというのであれば、気にされたほうがいいです。

以上です。

中林委員長 時間との勝負なので、3月いっぱいまでにどこまで改善できるか、事務局とコンサルさんとの間も含めて、少し協議をさせてください。今日は御意見として伺いました。どうぞ。

〇〇委員 22番の〇〇でございます。この中にコラムという形で委員の皆さんが書かれた文書が載っております。大変、皆さんよく考えて書かれて立派だなとは思いましたがけれども、例えば11ページのところのコラムというところの最後のところに、米印で、「コラムは多摩市都市計画審議会特別委員会に関わった学識経験者に執筆いただいています。」と書いてあります。ほかのページにいきますと、この一文がないんです。全部読ま

せてもらったんですけれども、コラムって特別委員会で話をしたことなのかなとか、多摩市はこう思っているのかなと勘違いをしてしまう場合があるので、全部につけておいたほうがよろしいかと思います。

以上です。

中林委員長 ありがとうございます。それは可能ですかね。

都市計画課長 御意見ありがとうございます。確かにそれぞれのページをぱっと開いたときに受け取る印象が大分違うと思いますので、各コラムのところに入れさせていただこうと思います。ありがとうございます。

中林委員長 ほかは、図の凡例の色使いで気になったところはありませんか。私は、25ページの(2)都市計画公園・緑地などというところが、紙ベースでちょっと気になっていました。デジタルで見ると、かなりはっきり変わっているので、紙に印刷した時点と最終的なデジタルの時点が違うからしょうがないかなと思ったんですけれども、凡例の上2つの都市計画公園と都市計画緑地というのが緑系で、都市計画緑地を探せども微妙な色の違いなのでよく分からなくて、番号が振ってあるので、その番号で見ると都市計画緑地は32、33、34ということで、なるほど、違うのかと思ったんですが、このデジタルで見ると少し蛍光色とくすんだ緑で、かなり判別がつきやすくなっているのかなというふうには思います。この紙の本というのは何部ぐらいつくられる予定なんですか。

都市計画課長 200部から300部ぐらいを予定しています。

中林委員長 その200部から300部ぐらいというのは、どういう使い方になるんですかね。基本的には市民の皆さんにはホームページで見てくださいという形ですね。

都市計画課長 そうですね、基本的には市民の方々にはホームページで、御確認いただきたいなというところございますけれども、販売も行わせていただく予定です。また、関係行政機関のほうに送らせていただいて、共有させていただくということを予定してございます。

中林委員長 写真、色ということについては、よろしいでしょうか。ほかにはいかがでしょうか。巻末に用語集を載せてもらっているんですけれども、この用語集から本文は見れませんし、本文を見ていって、これは用語集に

解説がありますというのも分かりません。

都市計画課長 今はそのような整理が十分できておりません。

〇〇委員 非常に細かいことですが、96ページにバリアフリーについての記述がありますが、「(2) 施設や公共空間におけるバリアフリー化の促進」の最後の行に、「ユニバーサルデザインの導入を目指します」という言葉がありますが、ユニバーサルデザインというのは設計そのものなので、「ユニバーサルデザインによる設計の導入を目指します」としたほうが適切だと思います。

中林委員長 用語集に、ユニバーサルデザインというのが出ていますが、この内容でいいですかね。274ページ左上のところにバリアフリーというのが出ていますが、バリアフリーからユニバーサルデザインへということです。

〇〇委員 大丈夫だと思います。ただ、バリアフリーもユニバーサルデザインも最近はインクルーシブデザインや、インビジブルな対応など、いろいろな言葉が出てきています。意味が大きく外れてはいないので大丈夫だと思います。

〇〇委員 いいですか。

中林委員長 どうぞ。

〇〇委員 〇〇です。今のことに関連して言えば、用語解説の近隣センターという項目の中に、「具体的な施設としては、交番や郵便局などがあります」とありますが、多摩市の近隣センターに交番とか郵便局ってあるのかなと思ったので、この一文はとっちゃってもいいんじゃないかなというふうに思いました。

中林委員長 交番は分かりませんが、郵便局はあります。

〇〇委員 どこにでもあるわけではないんですよね。

中林委員長 あるところもある。どうぞ。

〇〇委員 〇〇です。鶴牧商店街や永山商店街にはあります。交番はパトカーがすぐにアクセスできるように、自転車歩行者専用道路ではなくて車道に面してあります。

中林委員長 多摩ニュータウンは近隣住区センターではなくて近隣センターと読ん

でいるんですよね。これは多摩市の都市計画マスタープランなので、例えば多摩市ではみたいな話があるのであれば、なるべくそういう形で解説したほうが市民にとってはよく分かるかなと思いました。

私がこの用語解説で一番気になったのは、269ページの旧耐震基準の中に「新耐震基準は」と一言入っているんですけども、実は建設省が木造住宅に対して、2000年に新しい耐震基準というのを出しているんです。そのことが全く書いていないので、どこかにきちんと入れていただいてほしいなと思います。

東京都も去年から、グレーゾーンという1981年の新耐震基準以降、2000年の耐震基準が出る前に建てられた80年代、90年代の木造住宅については、耐震診断を行い、必要なら耐震補強の支援をしますという取組をもう始めていますので、そのことはここに書き込むか、別途、新耐震基準という項目を作っていただいて、木造住宅については、2000年に新しい耐震基準というのが出ていますということを入れていただいてもいいのかなと思いました。

また、本文中の言葉が何のことを指しているか分からないという人のために、アスタリスクか星マークなどを付けていただければ、これは後ろを見ると用語の意味が出るということが分かるので、用語解説がさらに生きてくるかなと思いました。

〇〇委員

〇〇です。用語解説を見て幾つか気になったところがあって、本文中で1回しか出てこないとか、あるいはそこで説明したほうが分かりやすいということだったら、本文のどこか空いているところに脚注で書いてしまったほうがいいと思っています。

それから、今出てきた委員長の話も関係するんですけども、旧耐震基準と書いてある中に耐震の話をもとめるとか、「特別」や「特定」と付く用語が多く出てくるという感じになってしまうので、もう少し分かりやすく整理したほうがいいんじゃないかなと思います。さっきのバリアフリーとユニバーサルデザインはたまたま記載場所が近かったから見えたんですが、類似の言葉はまとめて整理して、こういう表現の仕方もありますよというようなことを書いたほうがいいと思います。先ほど〇〇先

生が言われたインクルーシブのことも多摩市の講演会などでよく聞くことですし、書いていいと思います。この用語解説のところは、もう少し整理していただいたらどうかと思います。今まであまり説明をしてこなかったところですが、そう思いました。

中林委員長

インクルーシブ遊具というのが最近増えているんですね。だから、本文中に出てこないけど、多摩市では、そういう概念を基に作られた遊具がありますというようなことを加筆してもいいと思います。そういったことは多分、コンサルさんをお願いするよりも、多摩市を熟知している事務局のほうで確認できれば、市民にとって、マスタープランを見て勉強になったなという話に落ち着くところがあるかなと思いますので、一度、確認してください。

一般的に単行本なんかだと、後ろの索引に必ず本文何ページというのはつくんですけども、それをやると結構大変なので、本文のほうでアスタリスクをつけて、これは用語解説にありますよと表記してあげられればいいかなと思いました。ほかにはいかがでしょうか。どうぞ、〇〇さん。

〇〇委員

〇〇と申します。拠点別まちづくり方針について、今回、見直しにあたって新たに書き起こしたらどうでしょうと提案したものとして、新たにその章を追加していただいてとても感謝しているんですが、よく読んでみると、まちづくり方針図というのが聖蹟桜ヶ丘駅周辺、永山駅周辺、多摩センター駅周辺にそれぞれ最後の総括として表現されているんです。

ところがこれ、よく見てみると、地域別まちづくり方針図をちょっとズームアップしているだけで、表現されている情報はほとんど同じなんです。最終回で言うべき話じゃないのかも分からないんですが、拠点別まちづくり方針は、今回何でそこだけ取り上げて記載するに至ったかという、やっぱりこれから世に通っていく多摩市の多摩市らしさ、その表現を集中的に示していくためにこの3つの拠点を選んだのだらうと思います。

結局、その拠点を今後どうしていくかということに関して、強くアピールしていく必要があること、集中的に活性化に取り組む必要があると

いう意味も込めていたんですが、言葉でコメントされている内容が残念ながら方針図に示されていないので、そこをよく見ていただきたいです。拠点別まちづくり方針図が、地域別まちづくり方針図と同じというのは提案した者としては消化不良かなと思わざるを得ないということを指摘しておきたいと思います。

それから、拠点別・地域別まちづくり方針の中で、市街地の再生にエリアマネジメントという視点が不可欠であるという認識の下に、エリアマネジメントの組織化、これは公というよりもどちらかというと民の力に負うところが大きいのですが、公はどちらかというとエリアマネジメントを側面から支援していくという立場にあると思います。今回のこの3つの拠点についても、それぞれの整備方針の最後のほうになるんでしょうか、ハードの整備と同時に、ハードを使いこなす民間や地域の方々が責任を持ってまちづくりに取り組んでいくということ、それは商店会であったり、例えば多摩センター駅や永山駅であれば新都市センター開発株式会社であったり、そういうところが母体となって形成されるものなのかも分からないんですが、いずれにしても、これは行政だけで頑張るテーマではなくて、そもそもまちづくり自体がもう行政だけで取り扱う問題ではなくなりつつあるので、その辺の問題意識と組織化の必要性、それをしっかりサポートしていくんだということに関して、最後のほうで構わないので記述しておいたらどうかなと思いました。

以上です。

中林委員長 最後のほうでというのは、第5章のことでしょうか。

〇〇委員 それぞれの拠点別まちづくり方針の最後という意味です。

都市計画課長 御意見ありがとうございます。エリアマネジメントによるまちづくりについては、資料1の205ページに、「③これからの協働によるまちづくり」という見出しで、入れさせていただいています。個別の地域の動きというより、今後やはり市全体としてこういう動きが必要だろうという視点で記載しています。実際に聖蹟桜ヶ丘駅周辺のかわまちづくりでは、このような取り組みの検討が少し進んできておりますし、今後、都市再生推進法人というところなどの動きも出てきそうなので、今後は御

意見いただいたように、行政だけでということではなく、民間の力と共にまちづくりを進めていきたいというふうに考えてございます。

また、拠点別まちづくり方針図について御意見いただいたところでありましても、現段階から手を加えていくというのはなかなか難しいかなと考えております。そのようなところもありまして、方針図に、このエリアはこういう方針としていきたいですという吹き出しを入れさせていただきます。

図でなかなか書ききれないところについて、もう少しこういった記述が必要ではないかというようなことがあれば入れられなくはないかと思っておりますけれども、現状、事務局としましては、なかなか追加で入れていくのは難しいかなと考えております。

中林委員長

吹き出しみたいな文言が入っているところですよ。エリアマネジメントについては、205ページ、「(1) エリアマネジメントによるまちづくり」ということで、最初の黒点でこういうことですから書いてあるからかもしれないんですけども、用語解説にはエリアマネジメントというのが出てきていないので、用語解説にもできれば入れておいていただけますでしょうか。例えばこんなような取組ですとかというのは、具体的に多摩市の事例として紹介すべきものが必ずしもないかもしれませんが、東京の都心なんかだと大企業中心にエリアマネジメントをやったりしていますので、こういうような取組をしているまちがありますといったふうには書けばいいと思います。用語解説は市民のためにやっているんで、なるべく市民の皆さんに具体的なイメージが湧くような用語解説をお願いしたいので、さっき〇〇さんから専門用語が多く出てくるという御指摘もありましたが、それは何なのかと市民の方は思ってしまうので、例えばこういうような取組のことを指していますとか、そういう解説を少し加えていただいて、市民目線で理解していただくための用語解説なんですということをぜひ心がけて、もう一度事務局のほうで目を通していただいて、分かりやすい言葉に変えていただければと思います。せっかく入れていただいているのですが、今の状態だと非常に使い勝手が悪いので、本文にアスタリスクで用語集にありますというのを明示し

て、そこを読んだら、市民でも分かるように解説されているというようにしていただければと思います。

時間の許す範囲でということで、ほかにはよろしいでしょうか。どうぞ。

西浦副委員長 この都市計画マスタープランは紙ベースで300部ぐらい配るんですか。

中林委員長 販売します。

西浦副委員長 それで、最終的には多摩市のホームページにPDFでアップするんですよ。アップしてからでもいいですし、その前でもいいのですが、できればいろいろなところにリンクを張ってあげたらどうかなと思います。最後に市民アンケートを載せていますが、これを見て元データを利用してみたいという研究者がいたりするかもしれませんので、そのデータにアクセスできるリンクを張ってあげるとか、今のエリアマネジメントの話でもそういう組織があるのでしたら、そこにリンクを張ってあげるとか、東京都の資料でクリックすればそこに飛んでいくとか、そういうことを公開してからでもいいので、本文中に適宜リンクなどを張ってあげると便利だと思います。多摩市の都市計画マスタープランを見ていけば、いろいろなところに飛んでいっていろいろな情報を得られるみたいな、僕は結構それが便利で利用しているのですが、そうすると専門用語は変わっていくわけですよ。日々、新しい用語が出てきて、新しいコンセプトが出てきたり、どこかで取り組まれて出てくるところがあるので、都市計画マスタープランを公開した後でもリニューアルするときにでも、そういう情報がわかるリンクを張ってあげると、これを見てどんどんいろいろなところに飛んでいって、情報の基になる。多摩市の都市計画マスタープランはいろいろなところの情報が得られるなみたいになると、見る人にとってもいいですし、そういう時代なので都市計画マスタープランをPDFにして終わりではなくて、ここからいろいろなところに飛んでいけるような仕組みで、リニューアルしていったら便利に使えるのではないかなと思うので、ぜひ検討してください。了解を取らなければいけないところは多いと思いますが、検討していただければな

思います。

中林委員長 ○○さん。

○○委員 都市計画マスタープランに関連した計画が53ぐらいあります。それは多摩市のホームページの中に既にアップされているのがほとんどだと思うので、それをリンクさせることはすぐできるのではないかなと思いますので、ぜひやっていただきたいなと思います。

中林委員長 都市計画マスタープランからリンクして、どこかに飛ぶと。逆にそちを見ている人がクリックして都市計画マスタープランに入ってくるともあると。

○○委員 それは技術的に可能なのかよく分かりませんが、いずれにしろ都市計画マスタープランの下位計画にあたる市の行政計画があるので、それとリンクすることは簡単にできると思いますので、ぜひやっていただきたいなと思います。計画を進める際にいろんなことにぶつかったときにリンクに飛ぶと、より詳しく都市計画マスタープランに基づく計画の内容が書かれているということが一番重要なんじゃないかなと思っています。都市計画マスタープランの重要性はいろいろな下位計画を集約しているというところにあると思うので、それはぜひやっていただけたらと思います。

中林委員長 第2章のところに、ニュータウン再生の動きや東京都の関連計画などの概要が載っているんですけども、これをもっと知りたい人のために、そちらが見れるようにリンクさせておいたほうがいいです。これから庁舎建て替えの先に、同時にDXをやるんだと言っているわけですから、そういう意味では、DX時代の都市計画マスタープランとして、一度つくって固定ではなくて、そういう情報はどんどん増えていくような使い方ができるとか、あるいは別の計画を見ている人が、都市計画マスタープランではどう書かれているのか気になって、こっちへ入ってくるといような形で目にする人が増えていくということも期待されますから、今回まとめていただいた後の作業になるのかもしれませんが、そういうDXを先行するような形の取組も全庁的にやらないといけない話だと思うんですよね。福祉関連であったり、いろんな産業分野であったり、そ

ういうところとの連携というのが大事だよということだと思います。今回の都市計画マスタープランの扱い方としては、従来のやや古典的な手法で1冊本をつくるという話で来たんですけれども、これをきっかけにデジタル本として、縦横無尽に飛び回りながら理解ができるようなことを目指していただけるといいかなというのが委員からの意見でしたということで、ぜひ事務局は受け止めて、今後に生かしていただければと思います。

〇〇委員 今のお話に補足しますと、資料1の62ページを開いていただきたいんですが、都市計画マスタープラン自体、実はこれだけの計画と現実にリンクし合っています。

中林委員長 この（参考）というところですね。

〇〇委員 そうですね、これだけリンクしていますので、ここから飛んでいってもいいのですが、各セクションのところでそれぞれ関連して行って飛べるようになってもいいと思います。いずれにしろ、ここから各計画へ飛べるようにしたいなと思っています。以上です。

中林委員長 どうぞ。

〇〇委員 市民委員、〇〇です。都市計画マスタープランのPDFから外部にリンクを張ってということですが、外部のURLを探して一個一個張っていくというのは地味に大変な作業かなと思います。使い勝手の改善という意味ではもっと簡単にできる作業として、恐らく都市計画マスタープランのマスターデータはワードか何かでつくられていると思います。ワードには見出し1とか見出し2とか、事前に見出しを設置しておけば自動的にインデックスをつくる機能がありますので、例えば目次で第1章をクリックしたらそこに飛ぶ、第2章、第3章をクリックしたら指定のページに飛ぶというふうにした方がいいと思います。

中林委員長 ホームページで公開したときにということですね。

〇〇委員 目次を見た人が見たいところをすぐ読めるという標準の機能がありますから、そういったところも地味な改善かもしれないですけどもお願いしたいです。

中林委員長 それはワードで打ち込んであればすぐにできることですよね。

- 〇〇委員 標準機能ですぐできますからお願いしたいと思います。
- 中林委員長 ありがとうございます。どうぞ。
- 〇〇委員 さっきちょっと言い忘れたんですけれども、地域別すまいと暮らしのまちづくり方針のところの138ページのグラフのところに、例えば112、113ページに図がありますというようなことを参考として下に入れると分かりやすいのかなと思いました。それから、小さな図をここに入れるのはどうかと思ったんですが、簡単に済むのであれば、既に図があるページを参照とかでもいいのかなと思いました。
- 中林委員長 138ページなどに入れるだけであれば小さい地図をつくっておけばいいですね。
- 〇〇委員 そうですね、参照ページの記載だけでしたら1行ぐらいですのだからでしょうか。
- 中林委員長 事務局、御検討くださいとしか言えないです。
- 〇〇委員 簡単なことなんです、読んでいてページを探すのに結構苦労してしましまして、そこに書いてあればありがたいなと思まして。
- 中林委員長 図とおっしゃっていたんですけども、その図というのは、138ページの5つの地域の特性というところで、第1から第5地域というのが書いてありますが、その下に第1地域はどこなのか、第2地域はどこなのかを知らせるものがあつたほうがいいんじゃないかということですか。
- 〇〇委員 それがあると、この第1地域というところがどこだったかというのがすぐにわかります。もちろん地域は書いてあるんですけれども、ちょっと分かりにくいところもありますので、図に変えられれば分かりやすいかなと思まして。
- 中林委員長 それは112、113ページの見開きのところにある図をぐっとコンパクトにして、それをここへ張りつけておけば分かるということですか。
- 〇〇委員 図が入れば理想的なんですが、スペースがなければ文字だけでも大丈夫です。
- 中林委員長 文字だけというのはどういう意味でしょうか。
- 〇〇委員 文字というのは図が記載してあるページ数を記載するということです。
- 中林委員長 112、113ページに戻りなさいという文章をいれるということで

すね。

〇〇委員 112、113ページを参照という文字か、そこに図が入ればより親切ということです。

中林委員長 分かりました。140ページはグラフがみっちり2つ入っちゃっていて、余裕はないのですが、141ページの下に一文入れられるくらいのスペースがありますから、こういうところに文章か図が入っていれば、それで各地域がどこのあたりなのかは確認できます。ページ数は動かさずに余ったスペースを活用して少し入れられるか、検討させてください。どうぞ。

〇〇委員 13番、〇〇です。都市計画マスタープランがホームページで公表されたときに、例えば第1地域と書いてあるところをクリックすると下に一ノ宮、関戸と出てくるような機能ってつけられないんでしょうか。そうすると、この下のほうに各地域のインデックスをクリックすると、該当のエリアが出てきますみたいなことをちょっと書いておけば、第1地域ってそもそもどこなのかといったときに、クリックすれば関戸、一ノ宮、東寺方とかがぱっと出てくる。同じような機能がそれぞれの地域にあれば、図を書かなくてもいい、そういった機能がつけられるのかどうか、私、知識がないので分かりませんが、御検討いただければと思います。

中林委員長 それはデジタルでもできるでしょうし、小さい文字でいいのであれば、それぞれの最初のところに帯で第1地域って出てくるので、その帯の後ろのほうに、当該地を文字で入れておくというのは、文字で皆さんが分かっていたら、私に言わせると一番簡単な方法です。ただ、空間的にどういう配置か分かっていたきたいならば、やっぱり地図的なものがないといけない。文字で知りたいんだということであれば、142ページの最初に第1地域の範囲を示した地図がありますが、文章の一行目にも町名・大字名が入っています。それをタイトルに入れるか、本文に入れるかで見え方が違うので、タイトルの後ろにちょっと小さい文字で地域内の町名・大字名を入れておくというようなことも、工夫としてはあり得るかなと思いました。検討させてください。

〇〇委員 〇〇です。237ページと238ページなんですけれども、見やすさということで、一つこうしたほうがいいんじゃないかなと思ったのが、中学校別の円グラフの中で、この色が何を意味しているのかというのを最初見ていたときよく分からなくて、次ページを開いたら238ページにその凡例が四角い囲みで書いてあるんです。ですので、この前の237ページの一番下に空間がありますので、238ページの枠は、237ページのほうに持っていったほうがいいのかというふうに提案です。

中林委員長 237ページの上の方に横長の箱に入れてあるんです。

〇〇委員 分かりませんでした、失礼しました。

中林委員長 確かにこの横長2段で入れると何かよく分からないですね。

〇〇委員 むしろ238ページを見て、ああ、こういうことかと理解しました。

中林委員長 238ページのほうが理解はしやすい。だから、237ページの円グラフの下に238ページにあった凡例を入れて、上の横長の凡例は外してもいいのかもしれない。

〇〇委員 御検討ください。

中林委員長 確かに1列で並べていただいたほうが分かりやすいんです。

〇〇委員 一生懸命見て、これは何かなと思いました。

〇〇委員 凡例って書いていないんですよ。

中林委員長 凡例とは書いていないですね。だから、239ページもそうですが、上のほうを見てから下の表を見るのですが、見るべき場所がわかりづらいので、凡例が1列になっているともっと理解しやすいと思います。

〇〇委員 238ページと240ページの縦にずらっと並んでいる凡例のほうが分かりやすいです。

中林委員長 ということを含めて、これも御検討させてください。どうぞ。

〇〇委員 〇〇です。すいません、先ほど関連計画のURLを載せたらいいのではないかというお話があったと思うのですが、それぞれの計画などの名称にハイパーリンクつけてしまえば一番間違いないですし、URLを一々書いてしまうとすごい長さになってしまうと思うので、ハイパーリンクで対応したらいいかなと思います。

市の関連計画もそうなのですが、例えば国土交通省の計画とかにもそのようなリンクをつけてあげれば、すごく拡張性が高くなるのかなと思いますので、御検討いただければと思います。

以上です。

中林委員長 冊子で見る人とデジタルで見る人の情報量に格段の差が出てきそうな気がします、そのような状況になったときにはやはり冊子に一言、デジタルで見ただけだと各関係機関その他の関係計画等にリンクを張ってありますから、より理解が深まりますとか、何かそういうことを入れて、ホームページから見れるように誘導してあげたほうがいいかもしれません。どうぞ。

〇〇委員 237ページの中学生アンケートのところの、第1地域、第4地域とかの色を112、113ページと同じ色にすると見やすいのかなという気はいたします。かわいい色ですごくいいんですけども、統一感がないような気がいたします。多摩中〈第1地域〉と書いてあるところの色です。

中林委員長 同じような色合いだから当然合っているものかと思っていました。それは合わせてもらったほうがいいです。

〇〇委員 私の手元の資料では第1地域は緑になっているんです。これが古いバージョンで、新しい方は整合性がとれているならいいのですが。

中林委員長 デジタルのほうは、第1地域にある中学校のカラーリングは、112、113ページにおける第1地域のカラーリングと同じになっていますか。

都市計画課長 地域のところの色は学校ごとで色を分けているところになっています。各学校がどこの地域に入っているのかが分かりやすいような色合いの工夫をさせてもらいたいと思います。

中林委員長 そうですね。ニュータウン地域とそれ以外の地域で、子供たちの感覚が違うんですよね。だから、それははっきりさせるようにしたいので、中学校がどの地域の中学校かを表記してもらったんですよね。

都市計画課長 そうですね、230ページに各学校にこの色ですと載せさせていただいているんですけども、今、地域別の5種類の色のほうが、そのエリアごとで子供たちの視点も違うんじゃないかという話もいただきました

ので、それが分かるように色の工夫といいますか、分類のほうは修正させていただきたいと思います。ありがとうございます。

中林委員長 そうしてください。223ページに10地区に居住地区を分けている図がありますが、これは改定都市計画マスタープランの第1地域はこの図における第何地区と第何地区ですというのは大体分かるのでしょうか。223ページのこの地図は、第1地域は第1地区と第3地区ですとかというふうに読み替えることができるということで、そういう対応ができる地図なんですかね。

都市計画課長 市民意向調査の居住地区区分図になるかと思います。これは現行都市計画マスタープランの10地域で、市民意向調査をさせていただいたというところがありましたので、改定都市計画マスタープランの地域で表記している中学生アンケートの5地域の分類とはちょっと違ってきます。

中林委員長 これでも足し算していけば、5地域になるんでしょう。主にかみませんが、第1地区と第3地区が第1地域ですとか。

都市計画課長 大体はそのような感じになるかと思いますが、若干コミュニティエリアの見直しもかけていますので、単純に2つの地区を足した合計とはちょっとずれてくるかなというところがあるかと思います。

中林委員長 ちょっとずれていると思うけど、私の見た感じだと第1地区、第3地区が第1地域、第2地区が第2地域、第4地区と第6地区で第3地域、第5地区、第7地区、第8地区で第4地域、第9地区と第10地区で第5地域というイメージですよ。

都市計画課長 そうですね。

中林委員長 話がややこしくなってしまいましたが、第1地域の居住者はどんな意見なのかというときに市民アンケートの第1地区と第3地区を見てくださいとか、そういうような見方になるのかなと思います。結局、5つの地域で地域別まちづくりをこれからやっていくうえで、その地域はどのような意向を持った人たちがいるのかというところを読んだときに、この10地区区分と5地域区分との対比というのが多分ここだけです。だから、どこかに文言でも入れておいていただければいいのか

もしれないのですが、ただ、この調査は地区区分ごとに集計しているわけではありません。むしろ中学生アンケートのほうが第1地域の中学生は何を思っているのかという調査なので、そこは地域のカラーリングとリンクするような形で編集していただいたほうがいいかなと思います。

大分いろいろと御意見いただいたんですが、〇〇委員、どうぞ。

〇〇委員 〇〇です。1点教えてほしいんですけども、用語説明の272ページの地区計画について、今書いてある「ミニ開発や無秩序な市街化を防ぎ」という枕言葉があってもいいのかもしれないんですけども、全体で見ればにぎわいの誘導や活性化をするような地区計画がありますし、現に聖蹟桜ヶ丘駅周辺ではそういった趣旨の地区計画も策定されているというふうな情報も第2章に書いてありますので、「大都市近郊におけるミニ開発や無秩序な市街化を防ぎ」というのはちょっと絞り過ぎのような感じがしますので、地域の特性にふさわしい将来像を目指してとか、もうちょっとにぎわい創出とかそういったことも実現できるような言い方のほうがいいかなと思いました。

中林委員長 これは頭の「大都市近郊における」というのは要りません。地区計画は制度上どこでもつくれるので。ミニ開発からはあってもいいです。特定の地区の計画として、都市計画によって定めるということが大事なことで、これらのことを「都市計画により定めるものです」というのは、「地区計画は」という主語を入れればいいと思います。

もし丁寧に言うんだったら、多摩市にはこれだけ地区計画がありますよと、19ページを参照するぐらいはやっていただいてもいいかなと思います。やっぱり市民にとって、地区計画を身近なものに感じてもらうためには、そういう誘導をしてあげたほうがいいのではないかなと思いました。

ほかにはよろしいでしょうかね。どうぞ。

〇〇委員 すみません、〇〇です。223ページのところで今いろいろ御意見が出てくる中で気がついたのですが、まず1点は、この居住地区区分図と、その上に「回答者の居住地区に大きな偏りはありません」と説明があつて、その右側に円グラフで各地区の回答者の割合は大体その10%前後

ぐらいですよと説明していると思うんですけども、何で図とグラフでわざわざ色を変えちゃったのかなという素朴な疑問があります。

あと、説明文の「回答者の居住地区」というのが、何かちょっとすっきりしないです。偏りが無いということを言いたいのであれば「回答者の居住地区の分布に」といったように言葉をもうちょっと補足したほうが言いたいことが伝わりやすくなるのかなと、ちょっと細かい点ですが思いました。

中林委員長 よろしいでしょうか。居住地区区分図に第何地区と入っているの、第1地区、第3地区を改定都市計画マスタープランの第1地域の色にしまったほうが、対象がよく分かるということですか。それとも円グラフとこの地区区分図の色が違うということでしょうか。

〇〇委員 数をまとめるのも労力がかかると思いますし、これはあくまでも資料なので、費用対効果みたいなものを考えると当時の10地区区分を今の地域区分に頑張って合わせなくてもいいのかなと思います。ただこの地図と円グラフは同じ10地区の話をしているのにわざわざ色を変えているので、かえって分かりづらくなっているのかなという点と、あと、「回答者の居住地区に大きな偏りはありません」というのは、「回答者の居住地区の分布」とかそんなふうに言葉を補足したほうがいいんじゃないかなという話です。「回答者の居住地区に大きな偏りはありません」というのが、何が言いたいのかなという印象で、円グラフと合わせてみると、ようやく意味が分かると思うんですけども、回答者の居住地区の偏りって何か日本語としてちょっとぴんとこないという気がします。

中林委員長 分かりました。確かに円グラフの色合わせを簡単に直せるのであれば直していただいたほうがいいかもしれません。よろしいでしょうか。

今日が最終回ということで、今年度中に都市計画審議会があって、この特別委員会でまとめたものを都市計画審議会のほうで審議してもらうという流れになっています。3月中に一応まとめをして、新しい都市計画マスタープランとして公表されるのは令和7年度4月付になるんですかね。

都市計画課長 公表の日付については調整中です。

中林委員長 分かりました。

都市計画課長 3月中には公表して、ホームページ上でも公開したいと思っております。本市としましては公表した時点からの計画としたいので、議論のプロセスを踏みまして、本市の庁内での最終決定を経た後、公表・計画の策定時期としたいので、恐らく3月の後半ぐらいになるかなと思います。

中林委員長 ということで、実質1か月ぐらいの間に、皆さんからいただいた意見、私からの意見を踏まえて、やれるところまで努力していただいて、最終バージョンにしていきたいと思っております。

委員の皆さんには、冊子是要らないという委員もおられるかもしれませんが、必要ならお送りするという事でよろしいですか。

都市整備部長 皆さんにお送りいたします。

中林委員長 ということでございます。デジタルの公開というのは、とりあえずPDFで全文公開はすぐにできます。そこからいろいろリンクを張ったり、DXに向けての改善というのは時間もお金もかかると思いますが、今日意見をいただいているのと、多摩市全体がDXを目指そうという方針を掲げているはずですので、まさに全ての分野の部局の計画とリンクを張るような話になりますから、都市計画課だけでできる話ではないと思いますので、それは今後進めていただいて、節々でリンクを張りましてということをお知らせしていただくような形にしていきたいなと思っております。

今日いただいた意見については、最終的に委員長の私と副委員長の西浦先生も含めて確認をして、これぐらいのところでという形で次のステップへ進めたいと思っておりますが、よろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

中林委員長 ありがとうございます。都市計画マスタープランについては、そのような形で進めさせていただきたいと思います。

日程第3、その他について、事務局より説明をお願いします。

都市計画課長 皆様、活発な御議論ありがとうございました。リンクの張り方ですか、そういったところが本市のホームページのシステムでどこまでできるか、ちょっと分かりませんが、可能な範囲で対応したいと思っ

ております。

また、この電子データも非常に容量が大きいこともありまして、御意見いただいたところにどこまで対応ができるか、なかなか難しいところもあるかもしれませんが、いずれにしても分かりやすいということが重要かと思いますので、そういう対応を進めてまいりたいと思います。ありがとうございます。

それでは、日程第3、その他について御説明させていただきます。

本日の会議以降の予定としましては、令和6年度第4回多摩市都市計画審議会が2月19日に開催されますけれども、そこで特別委員会から「多摩市都市計画に関する基本的な方針改定について」の報告をしていただきます。

報告につきましては、本来は特別委員会を代表して委員長の中林先生にお願いするところですが、受け入れる側の都市計画審議会の会長でもいらっしゃるということもございまして、副委員長の西浦先生に代表して、御報告をお願いさせていただきたいと思います。

都市計画審議会としては、中林会長にそれを受けていただくという形でお願いさせていただきたいと思います。

そして、都市計画審議会から市長への答申をいただく予定でございます。その後、庁内において決定、3月下旬頃に公表を予定してございます。

本日の委員会をもちまして、多摩市都市計画に関する基本的な方針改定特別委員会の開催は終了となります。改定にあたりまして、約3年間御協力いただき大変ありがとうございました。事務局からの資料送付が直前になってしまったり、会議の進行で分かりづらいというようなところもあったかと思います。至らない点が多々あり、御迷惑おかけしまして、申し訳ございませんでした。

改めてこの場を借りて、皆様にお礼申し上げます。ありがとうございました。

また、事務局として最後に都市整備部長から、御挨拶をさせていただきたいと思います。

都市整備部長 最後にとのことでございます。本日、市長に成り代わりまして、皆様に改めて御礼を申し上げさせていただきます。ありがとうございました。

本当に長期間の会議、そして中身も非常に熱心な御審議をいただきました。私ども事務局もこの特別委員会に臨む際、本当に良い緊張感を持って臨ませていただきました。様々な知見、経験に基づく御意見賜りまして、今回、都市計画マスタープランの案としてよいものができたのではないかなと考えてございます。皆様のお力添えがあつてのことと思つてございます。

これから、このまちや都市計画を具体的に動かすというときの指標になることはもちろんでございますが、こういうものを皆様のお力をいただきながらつくりあげることができたということが、ここにいる事務局の職員、我々の財産となったというふうに考えてございます。まさに皆様方に育てていただいているというふうに私どもは考えているところでございます。今後とも、様々な場面で引き続き御指導いただくという面もあらうかと思ひますけれども、どうぞよろしくお願いいたします。本当にありがとうございました。

中林委員長 それでは、日程第3、その他、以上でよろしいですか。ありがとうございます。

12回も委員会をやつて、もうちょっと効率的に運営できたらよかったのではないかと、大いに反省していますけれども、本当に多くの忌憚のない意見をいただきながら、ようやくここまでたどり着いたかなと思ひます。

私自身にとつても20年前ぐらいに、多摩市の都市計画マスタープランに最初に関わつたときからですので、もう3回目ぐらいになるかもしれませんが、これは20年後、2040年代を目標とした計画です。そういう20年後の未来を少し夢見て勉強させていただきながら、今回務めさせていただきました。そういう意味では私にとつても何とかここまでたどり着けたなという思ひがひとしおあるところです。本当にありがとうございました。

若い委員の方も多数おられますので、ぜひ今後とも、この都市計画マスタープランを実行して、いい多摩市になるように、いろんな形で応援し、叱咤激励もしていただいて、多摩市がいいまちづくりを進めていける、そのマスタープランとしてあれが生きていたねと言われるように、市民と行政で多摩のまちづくりを進める際の指標として、マスタープランとして生かされていくことを期待したいと思います。

ということで、本当にありがとうございました。

これをもちまして、第12回多摩市都市計画に関する基本的な方針の改定特別委員会、閉会といたします。大変ありがとうございました。

—— 閉会 ——